



熊本県の金融経済概観

(2020年4月1日)

1. 概況

熊本県内の景気は、新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響により、弱い動きとなっている。先行きについても、当面、弱い動きが続くとみられる。

最終需要面をみると、個人消費は、弱い動きとなっている。この間、観光は、厳しい状況となっている。住宅投資は、弱含んでいる。また、公共投資は、横ばい圏内で推移している。設備投資は、再開発案件を中心に高水準を維持している。

生産面をみると、弱含んでいる。

県内企業の直近の業況を3月短観で確認すると、全産業ベースでは、15期ぶりに「悪い」超に転化した（全産業ベース：12月+9→3月▲7→6月<予測>▲21）。

雇用・所得面をみると、労働需給は、引き続き逼迫している状況にあるが、このところ幾分弱含んでいる。この間、所得面では、改善基調が続いている。

この間、2月の消費者物価指数（熊本市、生鮮食品を除く総合、前年比）は+0.2%と、38か月連続で上昇した。

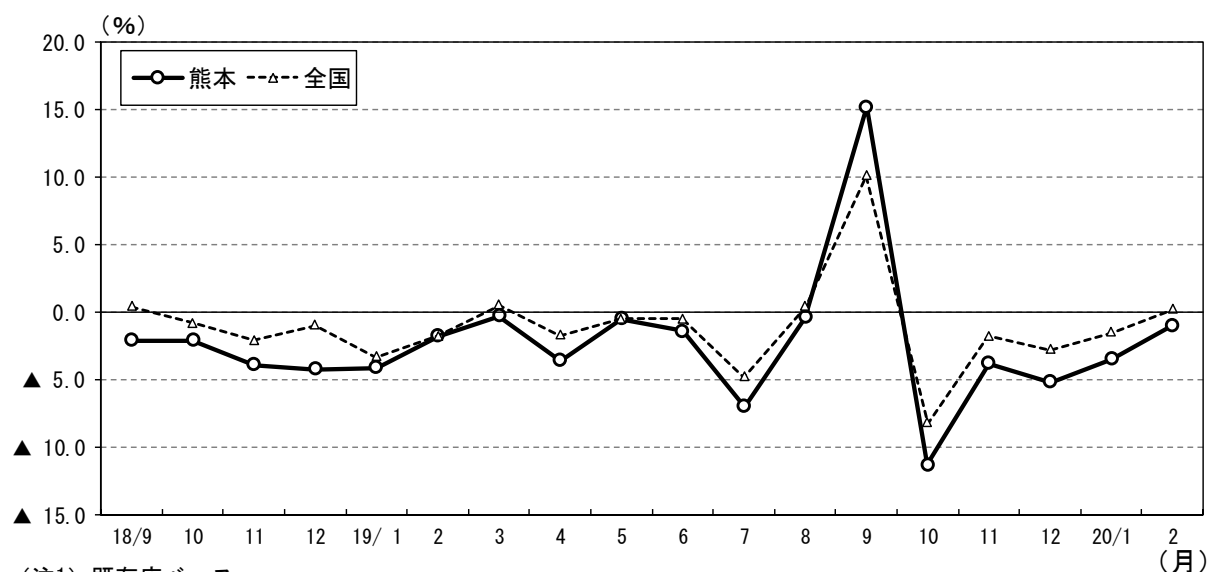
2. 個人消費

個人消費は、新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響により、弱い動きとなっている。

2月の百貨店・スーパー販売額は、消費増税後の反動減や暖冬の影響から、前年を下回った。2月の乗用車の新車登録台数（含む軽）は、消費増税後の反動減から前年を下回った。2月の家電販売額は、うるう年に伴う営業日数の増加から、前年を上回った。

観光は、厳しい状況となっている。

＜百貨店・スーパー販売額前年比＞



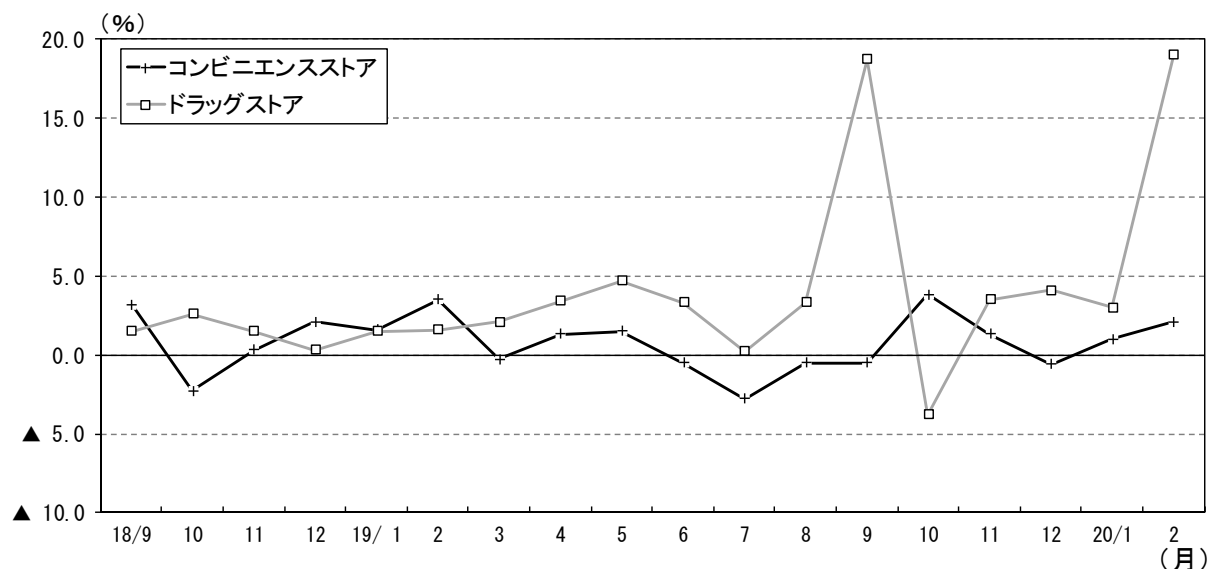
(注1) 既存店ベース。

(注2) 2019年計数は、年間補正により改訂（2020年3月）。

(出所：経済産業省)

2月は速報値

（参考）＜コンビニエンスストア・ドラッグストア販売額（熊本）前年比＞



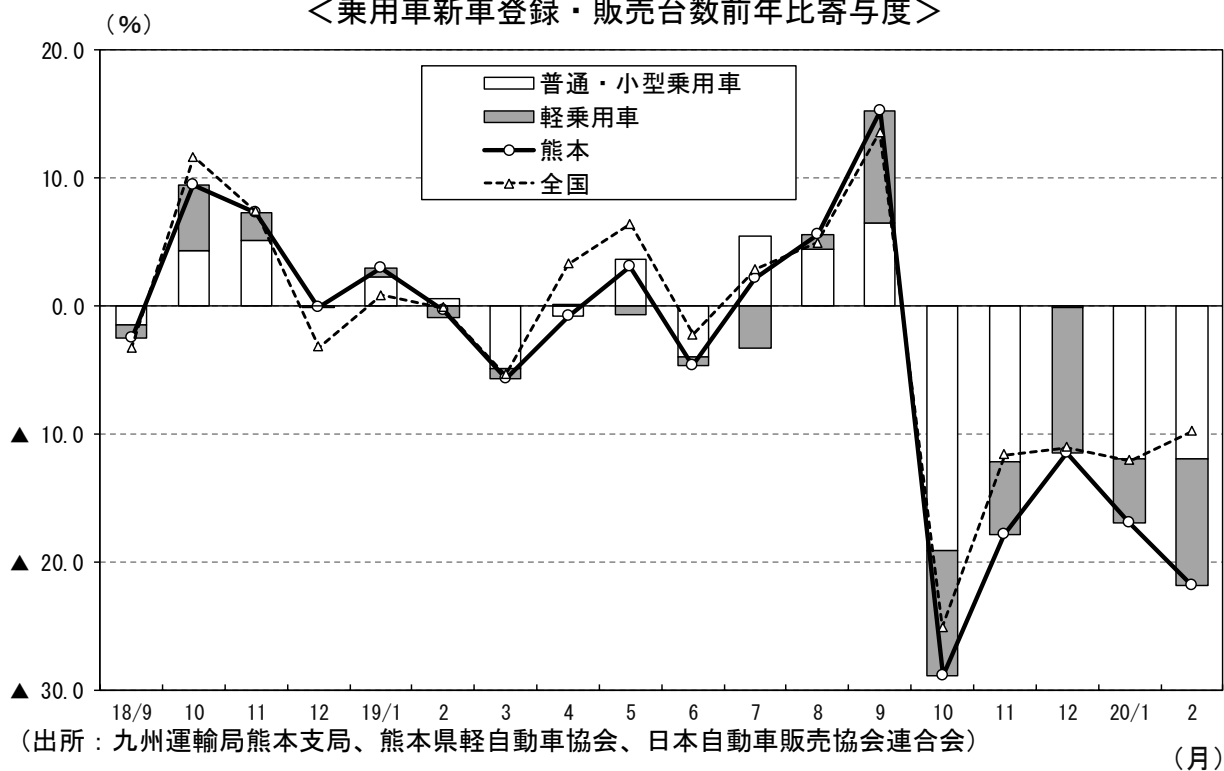
(注1) 全店ベース。

(注2) 2019年計数は、年間補正により改訂（2020年3月）。

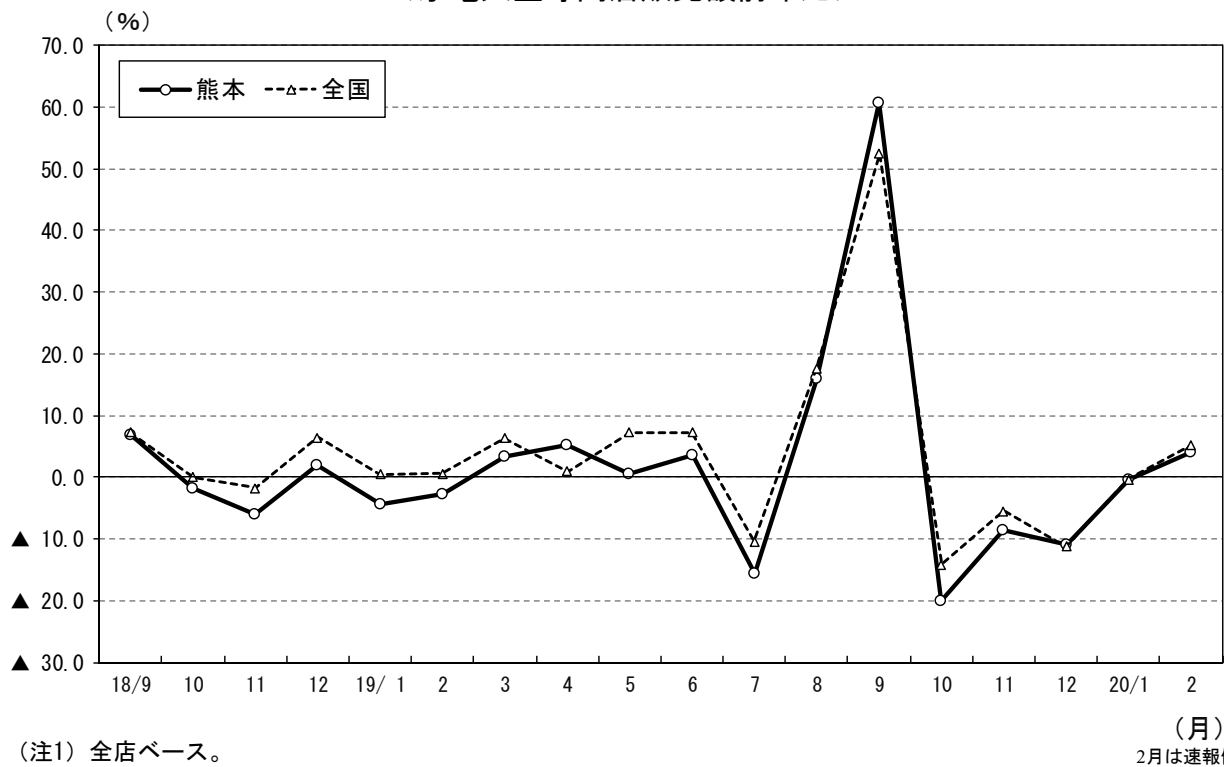
(出所：経済産業省)

2月は速報値

＜乗用車新車登録・販売台数前年比寄与度＞



＜家電大型専門店販売額前年比＞

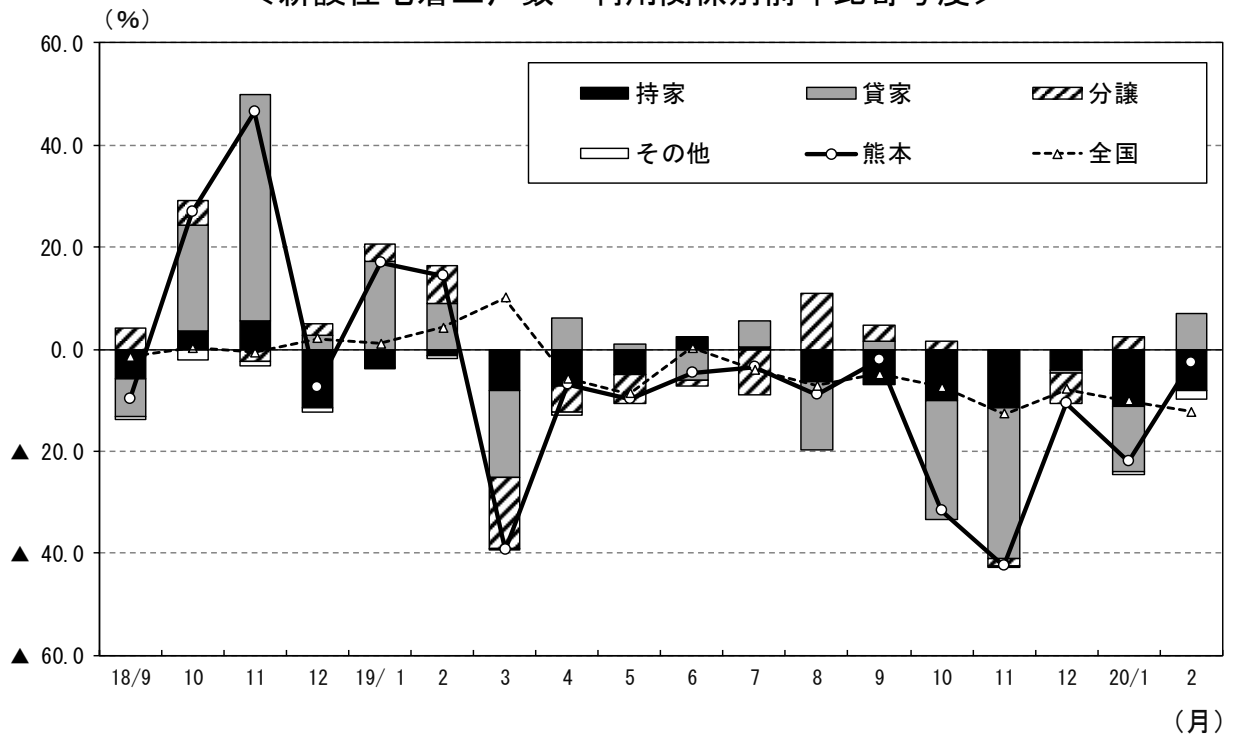


3. 住宅投資

住宅投資は、弱含んでいる。

2月の新設住宅着工戸数は、持家の減少により、前年を下回った（2月：前年比▲2.7%、19/4-20/2月：同▲14.3%）。

＜新設住宅着工戸数・利用関係別前年比寄与度＞



＜新設住宅着工戸数（年度ベース）＞



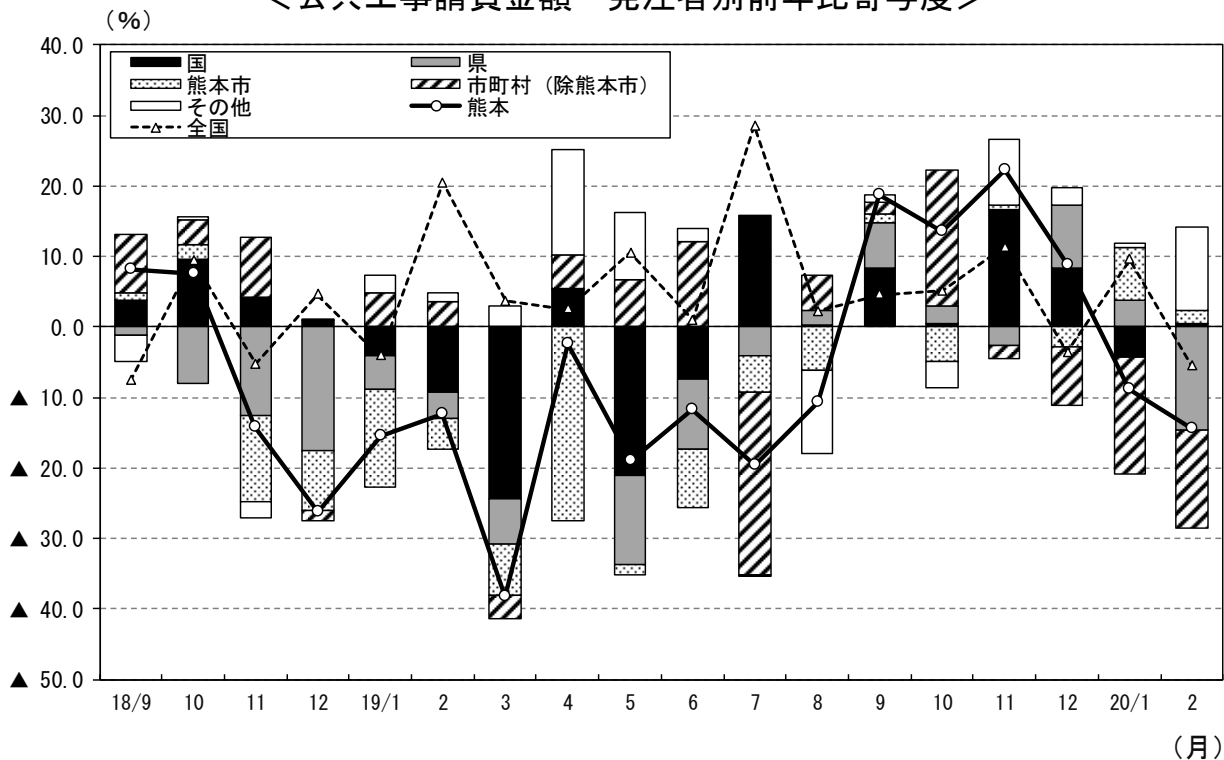
（出所：国土交通省）

4. 公共投資

公共投資は、横ばい圏内で推移している。

2月の公共工事請負金額は、県や市町村を中心に、前年を下回った（2月：前年比▲14.4%、19/4-20/2月：同▲2.1%）。

＜公共工事請負金額・発注者別前年比寄与度＞



＜公共工事請負金額（年度ベース）＞

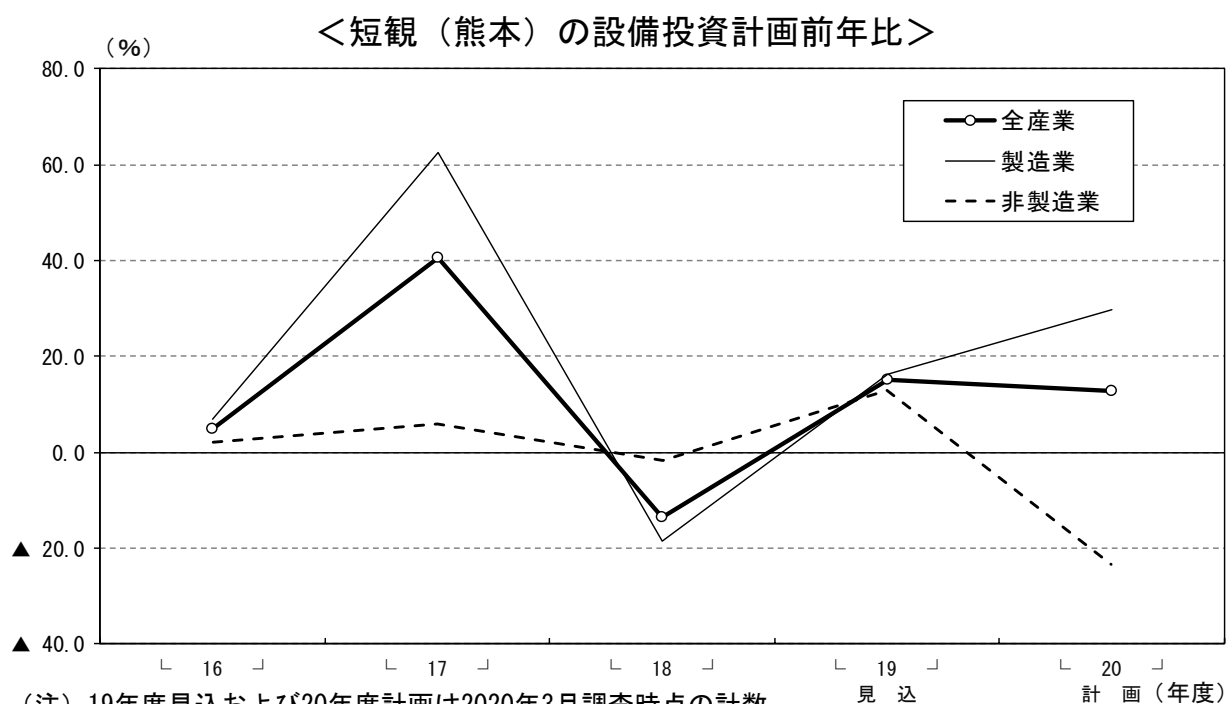
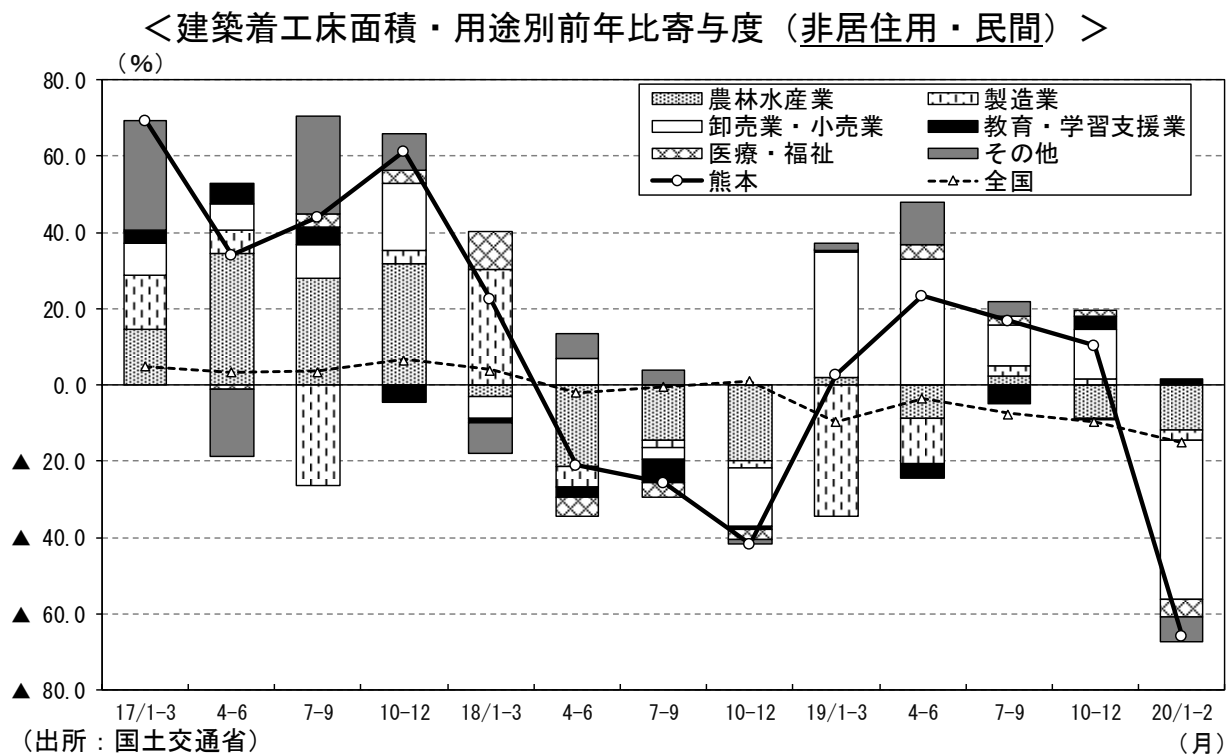


(出所：西日本建設業保証、東日本建設業保証)

5. 設備投資（建設投資）

企業の建設投資は、再開発案件を中心に高水準を維持している。

2月の建築着工床面積（非居住用・民間）は、卸売業・小売業を中心に、前年を下回った（2月：前年比▲79.2%、19/4-20/2月：同▲4.7%）。

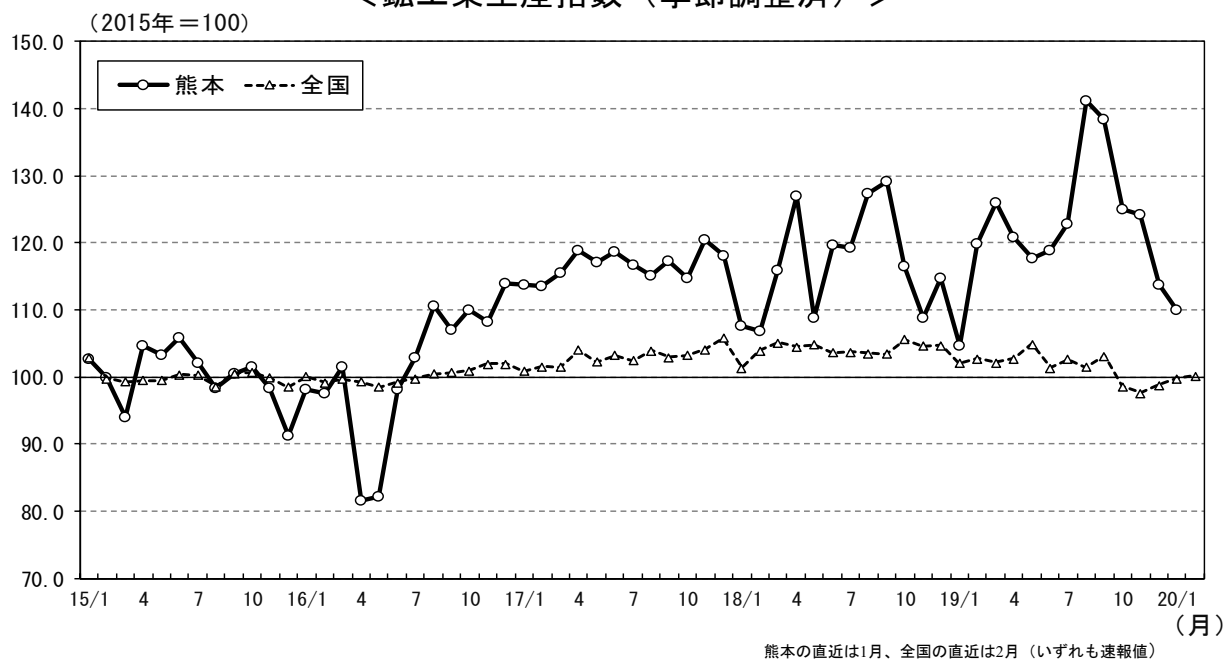


6. 生産

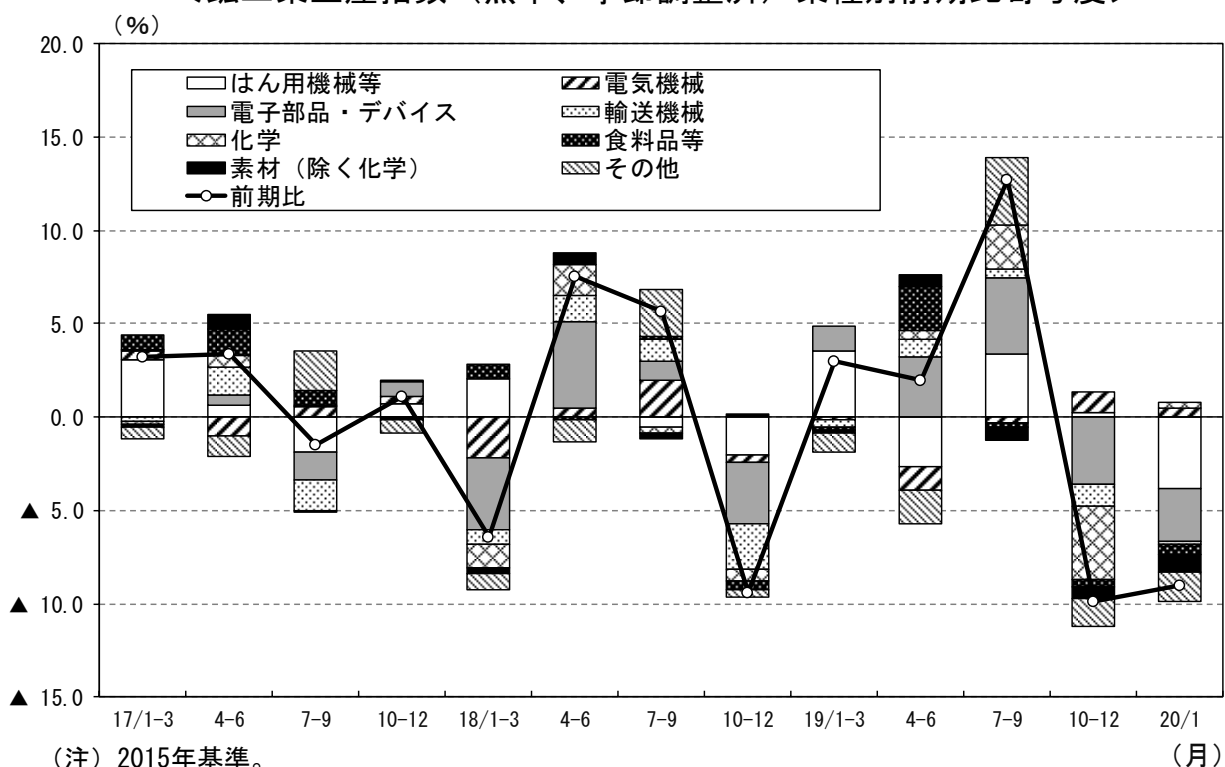
生産面をみると、弱含んでいる。先行きも、弱含んで推移する見通し。

1月の鉱工業生産指数（季節調整済）は、「はん用機械等」を中心に、前月を下回った（1月：前月比▲3.2%）。

＜鉱工業生産指数（季節調整済）＞



＜鉱工業生産指数（熊本、季節調整済）業種別前期比寄与度＞

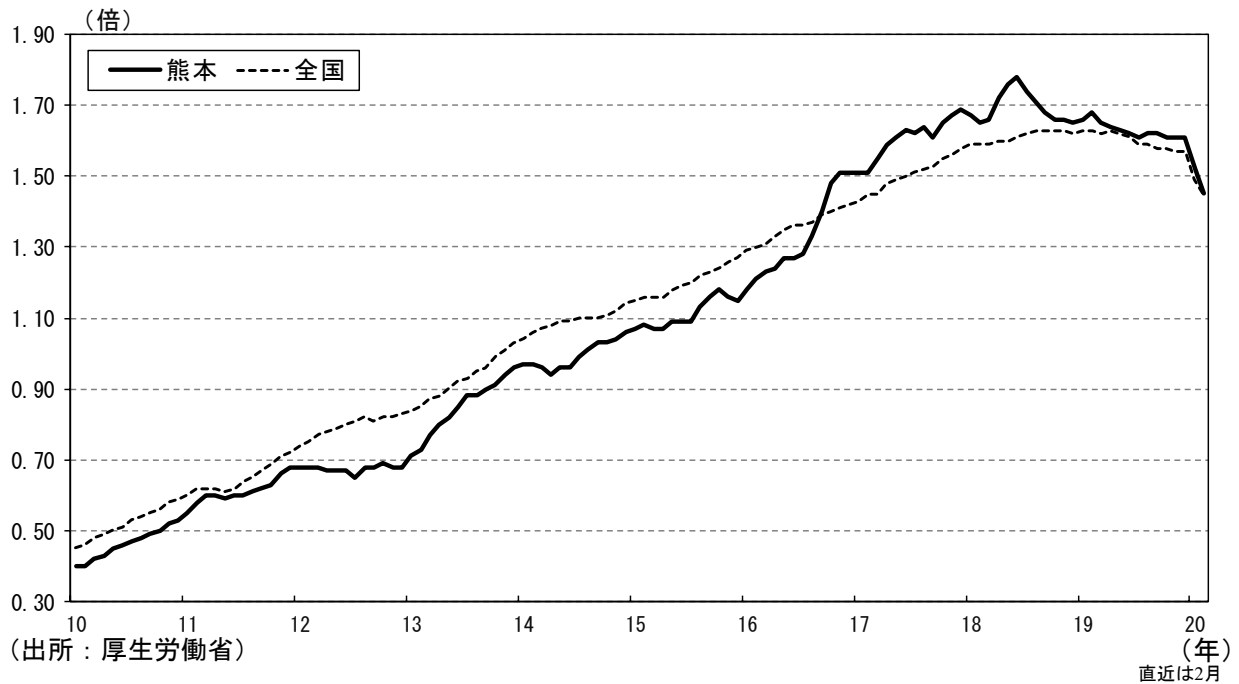


7. 雇用・所得

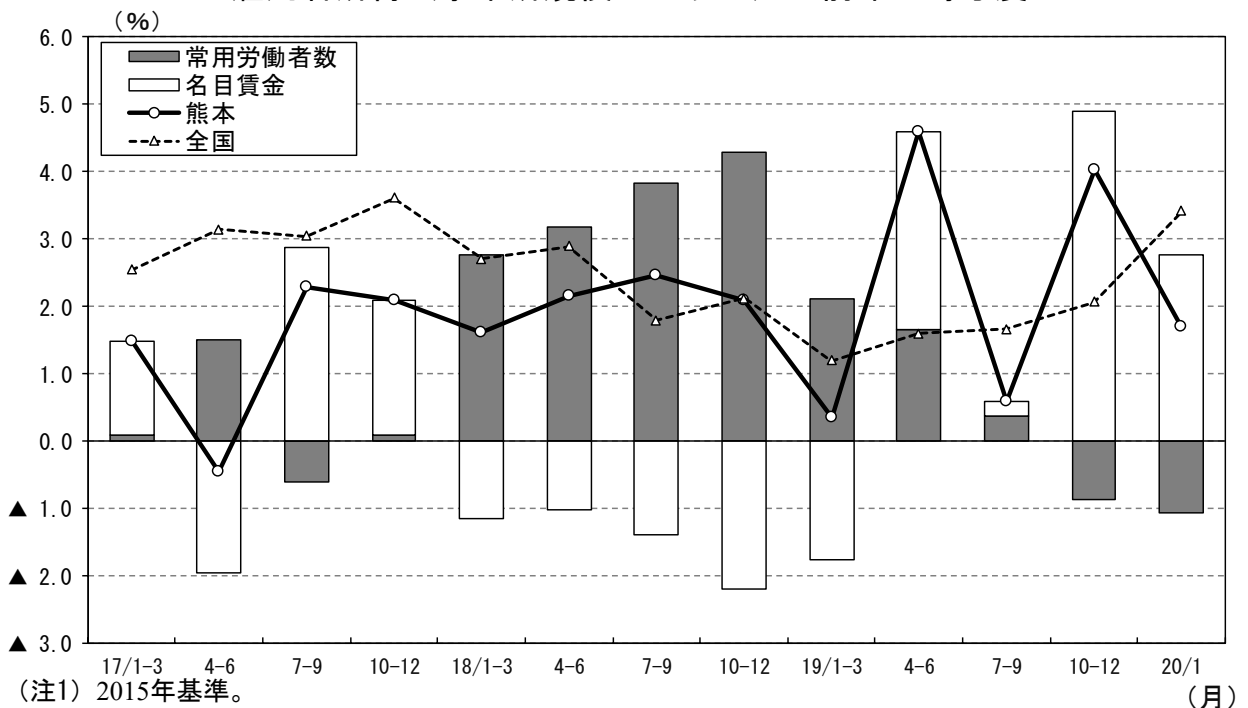
県内の労働需給は、引き続き逼迫している状況にあるが、このところ幾分弱含んでいる。この間、所得面では、改善基調が続いている。

2月の熊本県の有効求人倍率（季節調整済）は、1.45倍と2か月連続で低下した。

＜有効求人倍率（季節調整済）＞



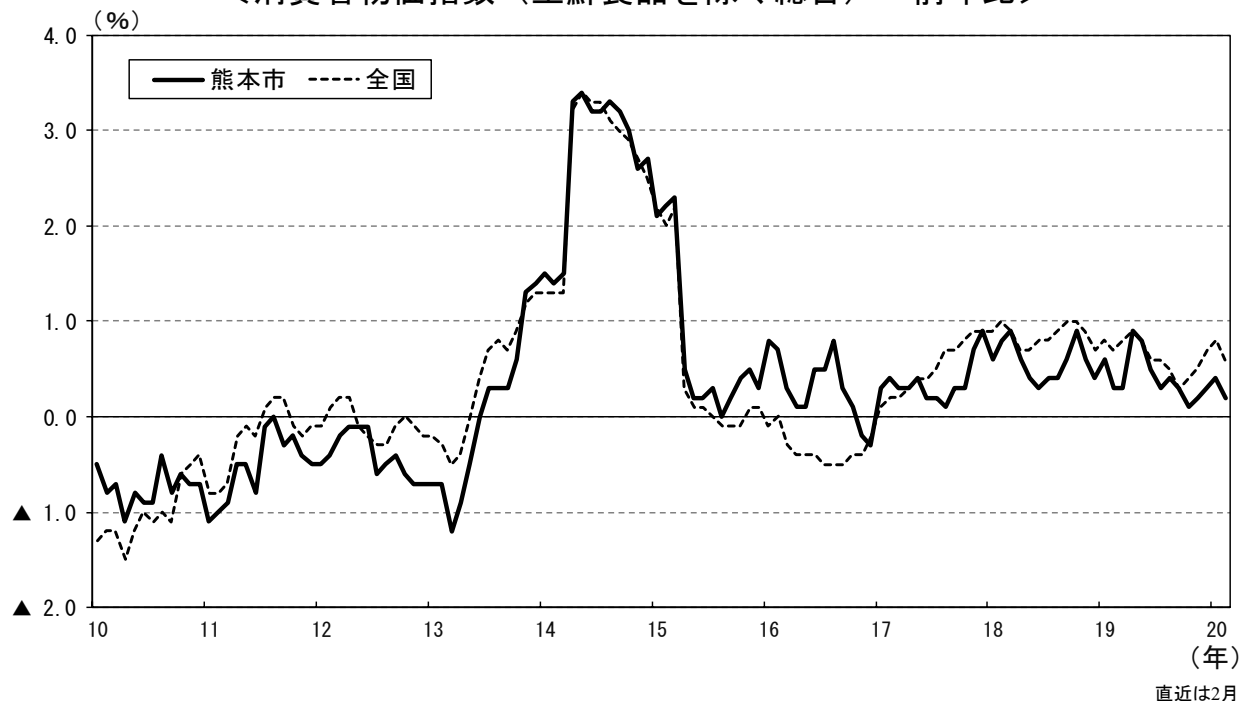
＜雇用者所得（事業所規模5人以上）・前年比寄与度＞



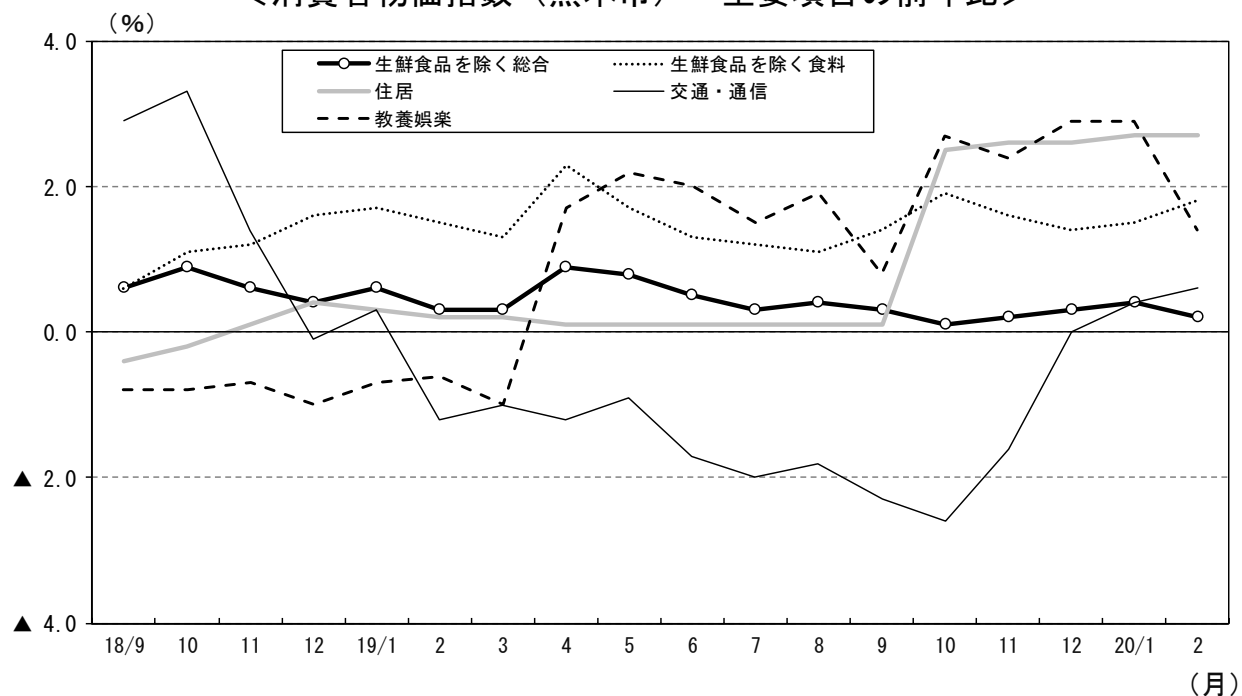
8. 消費者物価

2月の消費者物価指数（熊本市、生鮮食品を除く総合、前年比）は、+0.2%と、38か月連続で上昇した。

＜消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）・前年比＞



＜消費者物価指数（熊本市）・主要項目の前年比＞



（注）2010年12月までは2005年基準、2011年1月～2015年12月は2010年基準、2016年1月以降は2015年基準。

（出所：総務省）

9. 預金・貸出金、貸出約定平均金利

2月の預金（実質預金＋譲渡性預金）動向をみると、個人預金を中心に前年を上回った（前年比：熊本県＋2.0%、全国＋3.0%）。

貸出金は、引き続き大きく伸びている（同：熊本県＋4.6%、全国＋2.2%）。内訳をみると、個人向けは、住宅ローンを中心に増加している。法人向けは、設備資金が徐々に増えてきている。

貸出約定平均金利（総合、ストックベース）は、1.049%と既往ボトムを更新した。

＜預金（実質預金＋譲渡性預金）前年比＞



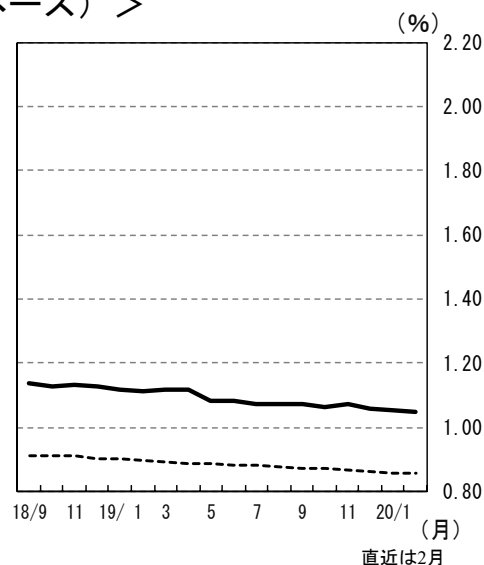
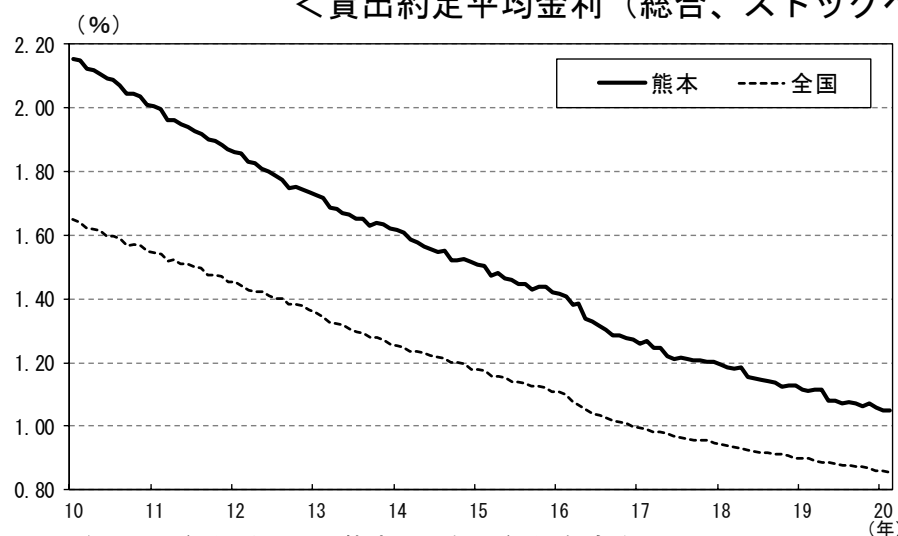
＜貸出金前年比＞



（注1）実質預金＝表面預金－切手手形。

（注2）熊本県は、預金・貸出金ともに銀行（ゆうちょ銀行を含まない）・信用金庫・信用組合の合計で、末残ベース。全国は預金が3業態（都銀・地銀・地銀Ⅱ）計、貸出金が国内銀行計で、いずれも平残ベース。

＜貸出約定平均金利（総合、ストックベース）＞



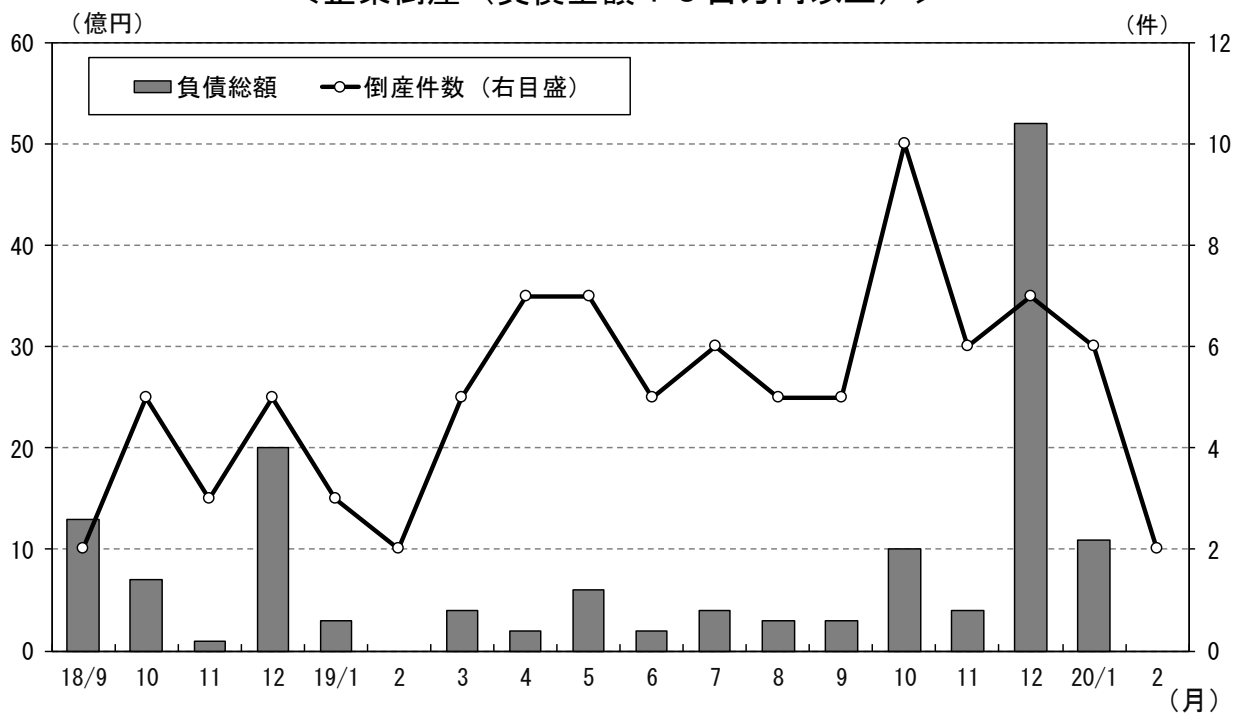
（注）国内銀行ベース（熊本県は信託銀行を除く）。

（出所：日本銀行）

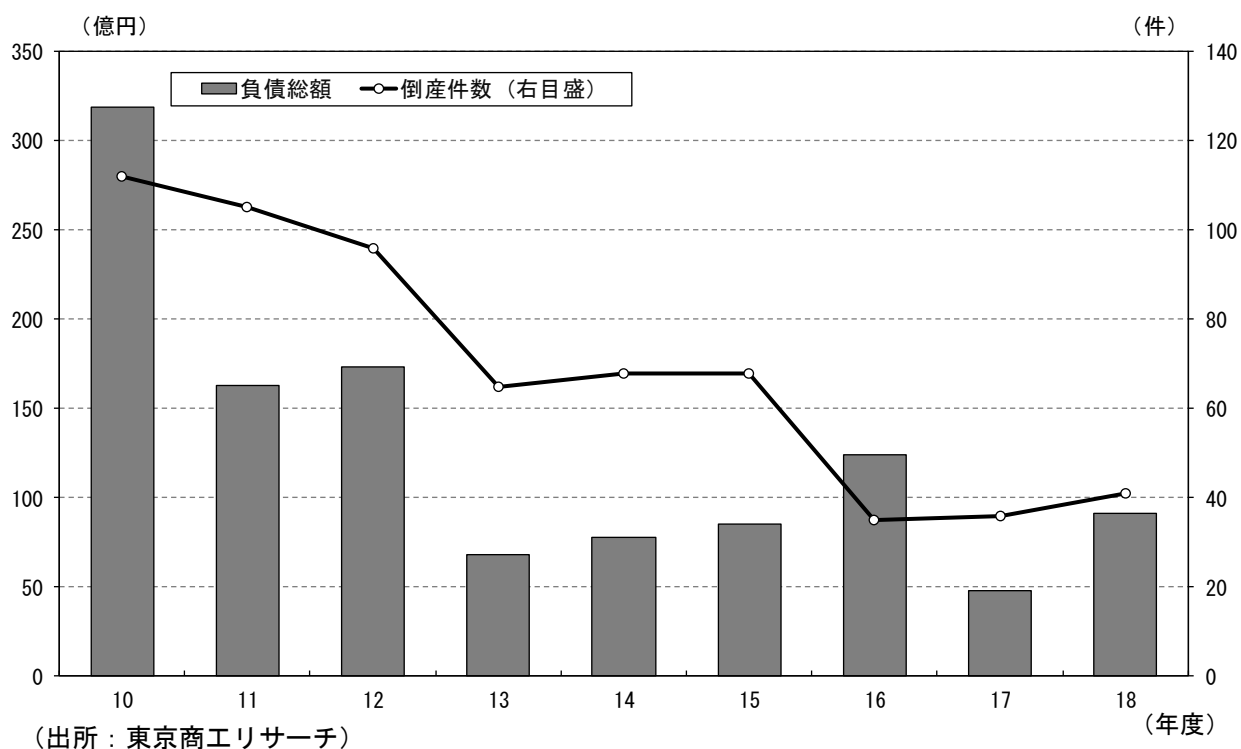
10. 企業倒産

2月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、件数、負債総額ともに前年並みとなった。

＜企業倒産（負債金額10百万円以上）＞



＜企業倒産（負債金額10百万円以上、年度ベース）＞



以上